

【施策評価(令和元年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり
施策	17	子どもの教育の充実
施策主管部等	教育委員会	
評価責任者	豊岡 勝敏 教育部長	
評価シート作成者	大澤 浩 教育次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
子ども一人ひとりの個性をいかし、学力を定着させ、生きる力を育むことができるように、学校や家庭、地域などが連携しながら、子どもの教育の充実と健全な育成を図る。	盛岡市学校教育の目標を、「子どもたち一人一人に、自立して社会で生きていくための基礎を育む」とし、全市的な取組を総合的に進めており、一定の効果が出ているものと認識している。 成果指標としている小中学校の学力については、学力向上推進事業による授業改善等の取組により、全ての指標で全国水準を上回る傾向が維持され、体力運動能力については、令和元年度に比べ低下した項目が見られる。 学力、体力運動能力とも、なお課題があることから、要因を分析し、取組方法を研究しながら、引き続き全市的な取組を展開していく必要がある。

施策の概要

主な取組内容
<p>・教員の指導力向上のための取組を行い、児童生徒の学力向上を図るとともに、道徳教育・先人教育の充実などにより、豊かな心の育成を進めた。また、スクールアシスタントや不登校生徒等対策相談員を配置し、個別に配慮が必要な児童生徒への支援に取り組んだ。</p> <p>・学校等の施設については、校舎の大規模改修工事、プール改修工事及びトイレ改修工事並びに小・中学校及び幼稚園への空調設備設置工事等を行ったほか、施設の適切な維持保全に努めた。</p>

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
小中学生	学力の向上が図られる。 心身ともに健全育成が図られる。
幼児	健やかな成長が図られる。
高校生	学力の向上が図られる。 生徒一人一人の希望に沿った進路の実現が図られる。
教員	誠実公正でかつ指導力が向上されている。
小中学校施設等	充実した教育環境に整備され、良好に保たれている。

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価	
指標①	小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【小学校4年生:国語】	単位 ポイント	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)	
当初値(H25)	110.6	R1目標値	113.0	R6目標値	113.0
<p>叙述に即して、言葉と言葉との関係を言葉の意味や働き等に着目させながら文章を読むことや事実と意見を区別して書くことや自分の考えを支える理由や事例を明確にして書くことの学習活動の充実が必要である。</p>					
指標②	小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【小学校4年生:算数】	単位 ポイント	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)	
当初値(H25)	108.4	R1目標値	110.0	R6目標値	110.0
<p>学習内容を関連付けて考えることや総合的・発展的に考えることの学習活動の充実が必要である。</p>					
指標③	小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【中学校2年生:国語】	単位 ポイント	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)	
当初値(H25)	103.8	R1目標値	107.0	R6目標値	107.0
<p>文章全体をとらえること、事実と感想、意見などの関係を押さえて読むこと、要点をまとめたり書くことの学習活動の充実が必要である。 話し合いの進め方を意識して言語活動を展開することが必要である。</p>					
指標④	小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【中学校2年生:数学】	単位 ポイント	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)	
当初値(H25)	102.2	R1目標値	105.0	R6目標値	105.0
<p>計算技能の確実な定着を図る指導が必要である。 授業における考えを数学的に表現し伝え合うことや問題解決の方法について説明したり検討したりすることの学習活動の充実が必要である。</p>					
指標⑤	小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【中学校2年生:英語】	単位 ポイント	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)	
当初値(H25)	103.2	R1目標値	105.0	R6目標値	105.0
<p>正しい文法について、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の全領域でバランスよく指導することが必要である。 「聞くこと」「話すこと」の領域で目的や場面、状況等に応じて考え表現する学習活動を充実させることが必要である。</p>					
指標⑥	体力運動能力調査の全国水準(100)との比較【小学校5年生:男】	単位 ポイント	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)	
当初値(H25)	97.8	R1目標値	101.0	R6目標値	101.0
<p>過去の体力調査結果では、落ち込みがみられる学年ではあるが、筋力(握力)が全国との比較において高い結果となった。また、全身持久力(20mシャトルラン)とスピード(50m走)は、改善が図られてきているが、全国との比較において低い結果となった。 普段から、望ましい姿勢づくりや体育の授業での運動量を確保するとともに、盛岡市とスポーツ協会と協力し、SAQトレーニングの取組をさらに改善・充実させる必要がある。</p>					

実績値の推移				進捗の評価			
指標⑦	体力運動能力調査の全国水準(100)との比較【小学校5年生:女】	単位 ポイント	目指す方向 ↗	△遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)			
当初値	25.0	100.5	R1目標値	101.0	R6目標値	101.0	
指標⑨	体力運動能力調査の全国水準(100)との比較【中学校2年生:女】	単位 ポイント	目指す方向 ↗	△遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)			
当初値 (H25)	100.2	R1目標値	102.0	R6目標値	102.0		
指標⑧	体力運動能力調査の全国水準(100)との比較【中学校2年生:男】	単位 ポイント	目指す方向 ↗	△遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)			
当初値 (H25)	100.4	R1目標値	102.0	R6目標値	102.0		
指標⑩		単位	目指す方向				
当初値 (H25)		R1目標値		R6目標値			

進捗の評価(3段階):◎非常に順調に進捗している(令和元年度目標値を達成しており、令和6年度目標値も達成見込み)、○順調に進捗している(令和元年度目標値には達していないが、それに近い水準まで達しており、令和6年度目標値は達成見込み)、△遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策		成果点・問題点	今後の方向性
17-1	小中学校教育の充実	<p>○学力検査</p> <p>1 小学校4年生国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、全国平均より高い水準であった。各領域の平均正答率では、「書くこと」領域の全国比が117であり、「話すこと・聞くこと」領域、「読むこと」領域及び「伝統的な言語文化と国語の特質」領域でも全国平均を上回っている。 ・「読むこと」領域の小問内容「叙述に即した読み取り」において、誤答率が5割以上である。 <p>2 小学校4年生算数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、全国平均より高い水準であった。各領域の平均正答率では、「数量関係」領域の全国比が115であり、「数と計算」領域、「量と測定」領域及び「図形」領域でも全国平均を上回っている。 ・「図形」領域の小問内容「二等辺三角形の説明」「二等辺三角形をかく」において、誤答率が5割を超えている。 <p>3 中学校2年生国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、全国平均より高い水準であった。各領域の平均正答率では、「書くこと」の全国比が111であり、「話すこと・聞くこと」領域、「読むこと」領域及び「伝統的な言語文化と国語の特質」領域でも全国平均を上回っている。 ・「読むこと」領域の小問内容「行動と理由の読み取り」「叙述に即した読み取り」において誤答率が6割を超えている。また、「要点をまとめる」「要点の読み取り」において、無答率が6割を超えている。 <p>4 中学校2年生数学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、全国平均より高い水準であった。各領域の正答率では、「資料の活用」領域の全国比が119であり、「図形」領域でも全国平均を上回っている。なお、「数と式」領域と「関数」領域は全国平均と同程度であった。 ・「数と計算」領域の小問内容「正負の数の計算」「1次方程式を解くこと」において正答率が5割を下回っている。また、「正負の数の活用・説明」「比例の利用・説明」において、無答率が5割を超えている。 <p>5 中学校2年生英語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、全国平均より高い水準であった。各領域の正答率では、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域で全国平均正答率を上回っている。 ・「書くこと」領域の小問内容「適語選択 be動詞」「語順整理 疑問詞」において、誤答率が6割を超えている。 <p>○体力運動能力調査(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業や休み時間等での運動量確保や、盛岡市とスポーツ協会と協力し、SAQTレーニングの取組によって改善が図られている。 ・正しい姿勢で歩いたり走ったりできる児童が減少してきている。 ・登下校時の保護者による送り迎えが増えていることも要因の一つとして考えられる。 <p>(中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業での運動量確保や、部活動での運動量確保と休養のバランスがとれたことなどによって基礎体力の強化が図られたことが要因の一つと考えられる。 ・盛岡市の全身持久力(20mシャトルラン)とスピード(50m走)の値が上がってきている現状であるが、全国基準値も上がってきている。 ・運動に対して、正しく身体を動かすことができない生徒が多い。 	<p>○学力検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会において、全学的共通取り組み内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」の学習活動の意味・意義の説明を繰り返すとともに、数学的に表現し伝え合いながら「考えを深める学び合い」の保障につながる具体的な指導・助言を行う。 ・「各種学力調査における誤答や無回答の要因を分析し、指導に生かすこと」、「『確かな学力育成プラン』の年度をまたいだ共有」を通して、指導改善のCAPDサイクルを機能させる。 ・家庭学習について量的な改善が図られてきているため、質的な改善を図るとともに、主体的に学ぶ生徒を育成する。 <p>○体力運動能力調査(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通機関の関係や登下校時の問題もあり、保護者の送り迎えが増えつつあるが、徒歩の登下校の呼びかけをし、基礎体力の向上を図っていく。 ・体力向上に係る実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に啓発しながら体力向上を図っていく。 ・研究発表会での実践では、9年間を見通して「走る」に特化し、研究を推進する。 <p>(中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校に引き続き、「走る」に特化し、体力の向上を図っていく。 ・体育の授業や部活動を通して、ウォーミングアップの重要性を理解させ、正しい身体の使い方を習得させることで、基礎体力の向上を図っていく。 ・体力向上に係る実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に啓発しながら体力向上を図っていく。

小 施 策		成果点・問題点
17-2	幼稚園教育の充実	・保護者の満足度は向上しているが、一部の幼稚園では、園児の減少に伴い、発達段階に応じた幼児教育が保障されにくい状況が生じている。 また、子育て支援として保護者のニーズに対応した保育サービスの充実が求められているが、運営効率の面から取組拡大は困難である。
17-3	高等学校教育の充実	・進路指導が充実し、希望する進学・就職の目標達成率が向上している。 ・総合生活力・人生設計力の育成が求められるとともに、特別進学コースの安定的な国公立大学等への合格率を維持することが必要である。
17-4	教職員研修の充実	・令和元年度から、夏季のみ年1回の開催としたが、目標値を上回る参加を得ることができた。 ・参加者アンケートでは、満足度は高い(4段階評価のうち3と4が多く、平均3.76)。 ・夏期休業中の開催では、中学校の運動部の東北大会や高校体験入学等が重なることによる負担感についての声が聞かれた。 ・開催期日や受講環境の満足度における課題が見られた。
17-5	学校施設の整備・充実	・新たな事業の着手(基本設計の実施)は無かったが、既に着手している事業に係る工事及び実施設計を実施することができた。 ・学校施設について、限られた財源を効果的に活用し、計画的な保全の実施と施設の長寿命化を図り、次世代に大きな負担を強いることなく、「公共施設の保有の最適化」を推進し、持続可能な市民サービスの提供を目指す必要がある。 ・限られた財源の中、「公共施設保有最適化・長寿命化中期計画」のスケジュールに基づく大規模改修を実施できておらず、進捗が遅れている。

今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・幼児理解に基づく個の特性に応じた指導や保護者への積極的な情報発信、小学校教育との円滑な接続を図る幼児教育を提供する。 ・市立幼稚園各園の今後の在り方について方針を定める。
<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」等を通して、生徒自ら課題を見つけ、解決する力の育成や将来について深く考える機会を充実させる。 ・教職員大学院との連携等を通して、生徒の意欲を高める授業改善を目指すとともに、教員の実践的指導力の向上を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ○従来の講座に加え、時宜を得たテーマを取り入れて開催する。 ・学習指導要領の改訂・小学校プログラミング教育に係る講座、道徳科に係る講座 ・今日的課題・幼・保・小接続、教育相談に係る講座、自殺予防に係る講座、LGBTへの理解と対応、ICT教育に係る講座 ○岩手県立総合教育センターの研修、授業力改善研修、教育課程説明会、学校行事等の開催期日や内容、実施の有無(コロナ禍)等について確認しながら、令和2年度は人数、講座数共に縮小して開催する。
<ul style="list-style-type: none"> ・「長寿命化工事実施マニュアル」に基づき、事業費の精査を行い、限られた財源を効果的に活用することにより、将来にわたって様々なニーズに対応できる施設整備に努めていく。 ・「公共施設保有最適化・長寿命化中期計画」の見直しを受け、改修内容等について検討する。 ・「盛岡市公共施設保有最適化・長寿命化中期計画」と整合を図りつつ、施設の複合化が円滑に進むよう関係団体、関係部署等と緊密な調整を進めていく。 ・学校プールの老朽化への対応として、民間及び市営プールの利活用並びに学校プールの共用化等について検討を進める。

【施策評価(令和元年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり
施策	18	生涯学習の推進
施策主管部等	教育委員会	
評価責任者	豊岡 勝敏 教育部長	
評価シート作成者	大澤 浩 教育次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
誰もが楽しみや生きがいを持ち、豊かに暮らすことができるように、いつでもどこでも学ぶことができる環境の構築を図る。	社会教育施設では、市民の生涯学習を支援するため、市民ニーズを捉え、多様な講座の開催に努めているところであるが、受講者の年代や性別に偏りがあるほか、多様化するライフスタイルにも幅広く学習機会に接することができるよう、更なる創意工夫、改善が必要と考えている。 また、社会教育施設についても老朽化が進んでおり、市民が安全・安心に利用できる施設であることに加え、利便性の高い施設となるよう修繕・改修・整備を計画的に実施していく必要がある。 今後も、市民の学習意欲を高め期待に応えられるよう、ソフト・ハード両面から、生涯学習推進のための環境づくりに努める必要がある。

施策の概要

主な取組内容
<ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズを把握しながら、各公民館等において、家庭教育支援・青少年教育・成人教育・高齢者教育・芸術文化活動・生涯学習推進・地域連携など幅広いテーマで学習機会の提供に努めた。 中央公民館の大規模改修工事(企画展示室を除く)及び飯岡地区公民館の長寿命化修繕(20年目)を実施するなど、市民の良好な学習環境の整備に努めた。

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
市民	意欲的に学習活動に取り組む。
社会教育施設	計画的な整備や修繕により良好な環境が保たれる。

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価	
指標①	単 位	目指す方向			
まちづくり評価アンケート調査「この1年間に何らかの学習をした」と答えた市民の割合	%	↗	△ 遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)		
当初値(H25) 40.6	R1目標値 43.9	R6目標値 47.2	社会教育施設における学習講座は、多くの参加が期待できる市民が学びたいテーマだけでなく、防災や環境など社会の変化に応じて学んでほしいテーマとのバランスを図りながら実施する必要があること、また、講座開催が日中に偏っていることが、主催講座の参加者が伸びない要因と思われる。学習活動の機会や時間の確保が難しい働き世代の講座参加者数が少ない状況にある。ライフスタイルの多様化、情報通信機器の発達等により、生涯学習に対する市民意識が変化していることが背景にあるものと考えている。		
実績値の推移				進捗の評価	
指標②	単 位	目指す方向			
当初値(H25)	R1目標値	R6目標値			

進捗の評価(3段階): ◎ 非常に順調に進捗している(令和元年度目標値を達成しており、令和6年度目標値も達成見込み)、○ 順調に進捗している(令和元年度目標値には達していないが、それに近い水準まで達しており、令和6年度目標値は達成見込み)、△ 遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策	成果点・問題点	今後の方向性
18-1 社会教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学びの循環推進事業では、多彩な講座メニューを用意し、市民の継続的な学習活動に活用されているが、依頼講師に偏りがあるほか、防災や環境など社会的な課題をテーマとする講座への講師派遣が減少している。 家庭教育支援や青少年教育など社会教育事業の提供により、市民の学習機会の充実が図られるとともに、中学生リーダーや新成人のリーダーが育成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育に関する事業の効果的な周知方法を検討するとともに、家庭教育支援や青少年教育など社会教育に係る学習機会の充実と団体の育成支援を継続する。
18-2 社会教育施設の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> 講座により参加者数に偏りがあるほか、勤労青年層の参加が少ない。 中央公民館の大規模改修工事(企画展示室を除く)、飯岡地区公民館の長寿命化修繕(20年目)及び市立図書館の耐震補強・大規模改修に係る基本設計が完了した。また、(仮称)南部公民館整備事業が総合計画に位置付けられた。 老朽化の進む社会教育施設の計画的な改修、及び新たな施設整備を進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズの把握に努め、学習テーマのバランスを図り、魅力ある講座を実施する。 老朽化した社会教育施設の計画的な改修、及び「公共施設保有の最適化と長寿命化のための基本方針」との整合を図りながら、市民ニーズに対応した新たな施設整備を推進する。

【施策評価(令和元年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり
施策	19	社会を担う人材の育成・支援
施策主管部等	子ども未来部	
評価責任者	藤澤 忠範 子ども未来部長	
評価シート作成者	石橋 浩幸 子ども未来部次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
<p>将来を担う若い世代や女性がライフスタイルに合わせ、社会のさまざまな場面で活動できるように、人材の育成や情報の提供などの支援に取り組む。</p>	<p>「ジョブカフェいわて」や「もりおか若者サポートステーション」と連携を図りながら、若い世代や女性が活躍できるよう、今後も様々な支援を展開していきたい。</p>

施策の概要

主な取組内容
<ul style="list-style-type: none"> 県が設置する「ジョブカフェいわて」に、市事業としてカウンセラーを配置し、若者の就業支援を行った。 国が設置する「もりおか若者サポートステーション」において、市事業としてボランティア活動の場の提供や臨床心理士によるカウンセリングなどを実施し、若年無業者の就業に向けた支援を行った。 市役所でのインターンシップを希望する大学生等の受入れを行った。 高校生が市内の民間企業でのインターンシップを経験できるよう、参加企業の拡充を図るとともに、高校生とのマッチングを行った。 高校生を対象に、職業観の形成や地元定着の意識付けを図るための研修を行った。 地元企業で働く若手社員の仕事の様子や仕事を選んだきっかけなどを紹介し、地元で働き暮らすことイメージしやすくすることで、将来の地元定着を目的とした冊子「モリオカシゴトカメラ」を作製し、盛岡広域管内の高校1年生に対して配布した。 若者の地元定着を支援するため、就職後3年目までの若手社員を対象に、コミュニケーションスキル向上研修、キャリア開発研修を実施した。

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
若い世代の市民	社会で活躍できるようになる。

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価			
指標①	地域若者サポートステーションの支援を受けて就職を決定した人数	単 位	目指す方向	<p>△ 遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)</p> <p>各関係機関や病院との連携が図られており、延べ利用者数、就職者数とも平成30年度よりも若干増加しているが、目標値の半分程度にとどまっている。なお、就職者数は、新規登録者数に比例するが、新規登録者数は雇用情勢に大きく影響を受けることから、令和2年度以降は新規登録者数に影響を受けにくい「もりおか若者サポートステーション」に新規登録した盛岡市民のうち就職決定したものの割合」に指標を変更している。</p>			
		人	↑				
当初値(H27)	116	R1目標値	140		R6目標値	140	
<p>※H28に「進路を決定した人数」から「就職を決定した人数」に変更</p>							

実績値の推移				進捗の評価			
指標②	ジョブカフェいわての利用者数	単 位	目指す方向	<p>◎ 非常に順調に進捗している(令和元年度目標値を達成しており、令和6年度目標値も達成見込み)</p> <p>岩手県が設置する「ジョブカフェいわて」において、就職等に関するカウンセリング等の業務を行っているが、県事業との連携により、きめ細やかなカウンセリングが実施できていることもあり、利用者は目標を大きく上回っている。令和元年度と比較しても利用者が大幅に増加しており、若い世代に十分認知されていると考えられる。</p>			
		人	↑				
当初値(H25)	29,529	R1目標値	30,000		R6目標値	30,000	

進捗の評価(3段階):◎ 非常に順調に進捗している(令和元年度目標値を達成しており、令和6年度目標値も達成見込み)、○ 順調に進捗している(令和元年度目標値には達していないが、それに近い水準まで達しており、令和6年度目標値は達成見込み)、△ 遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策	成果点・問題点	今後の方向性
19-1 若い世代の活躍支援	<ul style="list-style-type: none"> 若年無業者となる背景は、心身の健康上の理由や人間関係に関する不安など、多種多様で複雑な要因があり、家族が公にすることを避ける例も多いため、支援を必要とする若年無業者の全容把握は困難である。「もりおか若者サポートステーション」の延べ利用者数も前年以上を確保し一定の実績を上げているが、利用者の抱える問題が複雑化していることから、一人の支援に対し、以前に比べて時間を要している。継続的かつ丁寧な支援が求められる分野でもあり、臨床心理士によるカウンセリング、ジョブトレーニングやボランティア体験の実施など、様々な支援メニューにより、利用者の社会的自立につなげていく必要がある。 「ジョブカフェいわて」は、若年者の就労に関する相談の拠点として十分に認知されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 若年者は今後の社会を担う貴重な人材であり、就労や職場定着は重要な課題となっていることから、引き続き若年者や若年無業者の就労支援を行うが、「もりおか若者サポートステーション」については、更なる利用促進のため、周知・PRに努めるとともに、本人の意向を尊重しながら丁寧な支援に努めていく。 「ジョブカフェいわて」については、より利用者のニーズに沿った支援が展開できるよう、事業の振り返り等を通じた改善に努めていく。

【施策評価(令和元年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり
施策	20	地球環境の保全と自然との共生
施策主管部等	環境部	
評価責任者	菅原 英彦 環境部長	
評価シート作成者	小原 勝博 環境部次長	

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

施策の目的(総合計画実施計画から転記)	施策評価全体を踏まえた評価責任者意見
地球環境や豊かな自然を次世代に引き継ぐため、地球温暖化対策やごみの減量化・資源化の推進、水や緑の保全などに取り組み、地球環境の保全と自然との共生を推進する。	3Rの推進により、ごみの排出量は減少しているが、特に、事業系ごみについては、令和2年度から実施する古紙搬入規制など、着実に施策を展開する必要がある。 地球温暖化対策、自然環境保全について、多様な講座を開催するなど施策の推進に努めているところであり、今後も、再生可能エネルギー活用拡大、市民の省エネ行動の実践啓発など効果的に進める必要がある。

施策の概要

主な取組内容
<p>【自然の保護と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近郊自然歩道9路線について、ガイドマップを配布及び環境部ホームページに詳細なコースマップや花暦などを掲載し、また、適切な維持管理を行い、利用者の安全確保に努めた。 <p>【環境を大切に作る心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境学習講座を23回開催したほか、環境部ホームページを活用し環境啓発を行った。 <p>【資源循環型社会の形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべてのコミュニティ地区ごとの家庭ごみ排出状況を把握するとともに、タイプ類型と取組例を示しきれいなまち推進懇談会を実施するなど廃棄物の発生抑制、資源の再使用・再利用などに取り組んだ。ごみ減量資源再利用の推進のため、各地区で開催される懇談会や、ニーズに応じた分別説明会へ出席し周知啓発を行うとともに、広報・ホームページや環境イベント開催等を通じた情報発信に取り組んだ。 <p>【地球温暖化対策の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「盛岡市住宅用太陽光発電システム等設置補助金」を実施し、住宅への太陽光発電システム等の普及を図った。

対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
身近な自然、森林・水源、その他(動植物)	自然が守られる。
市民・事業者	地球環境の保全の大切さが理解され、環境に配慮した行動が促進される。
資源・廃棄物・温室効果ガス	資源の保全が進む。廃棄物や温室効果ガスの排出が抑制される。

施策の成果指標の状況・評価

実績値の推移				進捗の評価	
指標①	まちづくり評価アンケート調査「自然が守られていると思う」と答えた市民の割合	単 位 %	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)	
当初値(H25)	80.8	R1目標値	83.0	R6目標値	86.0
<p>平成28年度まではほぼ目標値を達成していたが、29年度以降は実績値が目標値を下回っている。近郊自然歩道で一部崩落で現在通行できないルートや、公共交通機関で行けないルートがあるなど、自然環境の保全と活用の周知が不十分であったと考えられる。 今後は、近郊自然歩道にもっと親しんでもらえるよう、玉山地区への新しいルートの設定や、環境部ホームページにおいて情報を掲載するなど、身近な自然に触れ合う機会の情報発信が必要である。</p>					
指標②	まちづくり評価アンケート調査「CO ₂ の発生抑制やごみの減量など、地球環境にやさしい生活を常に心がけている」と答えた市民の割合	単 位 %	目指す方向 ↗	△ 遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)	
当初値(H25)	80.7	R1目標値	83.0	R6目標値	86.0
<p>令和元年度より実績値が減少したが、実績値は増減を繰り返している。近年気候変動による自然災害が頻発していることや、環境の変化に関する報道も多かったが、当市では現在まで大規模な自然災害を受けていないことなどから、関心が低い市民も一定程度いると考えられる。 令和元年度目標値に達していないことから、今後も地球温暖化対策としてのCO₂削減の重要性や再生可能エネルギーの導入促進、ごみの減量など取り組みやすい内容を分かりやすく市民に情報発信し、「地球環境にやさしい生活」について市民の意識をより高めしていく必要がある。</p>					
指標③	ごみ総排出量	単 位 t	目指す方向 ↘	◎ 非常に順調に進捗している(令和元年度目標値を達成しており、令和6年度目標値も達成見込み)	
当初値(H25)	118,398	R1目標値	111,170	R6目標値	105,880
<p>当初値より年々ごみ総排出量が減少し令和元年度目標値を達成しており、ごみの発生抑制やリサイクルの取組が成果として現れている。</p>					
指標④		単 位	目指す方向		
当初値(H25)		R1目標値		R6目標値	

進捗の評価(3段階): ◎ 非常に順調に進捗している(令和元年度目標値を達成しており、令和6年度目標値も達成見込み)、○ 順調に進捗している(令和元年度目標値には達していないが、それに近い水準まで達しており、令和6年度目標値は達成見込み)、△ 遅れが生じている(令和元年度目標値は未達であり、令和6年度の目標値達成にもかなりの努力を要する)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

小 施 策		成果点・問題点	今後の方向性
20-1	自然の保護と活用	<ul style="list-style-type: none"> ・近郊自然歩道や登山道の情報を提供するとともに適切な管理を行い、市民が自然に親しむ場所を提供することができた。 ・玉山地域の近郊自然歩道がまだ設置されていない。 ・玉山地域の近郊自然歩道の設置について検討中であるが、関係者との協議に時間を要している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・森林や河川などのかけがえのない自然や多様な生物が息息する環境を適切に守り、次世代に引き継ぐとともに、自然に親しむ機会を増やし、より多くの市民が自然を感じられる環境づくりを進める。
20-2	環境を大切にす心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習講座やエコライフ推進イベントの参加者数、環境部ホームページの閲覧者数が増加傾向にある。 ・地球環境にやさしい生活を常に心がけている市民の割合が目標値に達しておらず、更なる環境啓発を行わなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民や事業者環境保全に向けた取り組みやすい情報を分かりやすく提供するとともに、環境学習講座の開催や環境啓発の周知を行い、環境を大切にす市民・事業者を育成する。
20-3	資源循環型社会の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭ごみ(資源を除く)の減量に向けての各種事業の実施により、分別排出及び資源化に対する市民の意識は高まっており、ごみ総排出量、1人1日当たりの排出量とも着実に減少している。しかし、新型コロナウイルスの影響と思われるが、令和2年3月以降、家庭ごみの排出量が増加傾向にあることから、動向を注視する必要がある。 ・令和2年度からの事業系ごみの搬入規制実施に当たり、事業者に対し周知啓発を行い、搬入規制実施の準備を進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ地区ごとの排出量や組成分析データ等により得られた特徴や実態について、更に分析を進め、地区の特徴に合わせた取組を推進することにより、家庭系ごみ減量施策を推進する。また、新型コロナウイルス感染対策として、ごみ減量・分別の徹底につながる「新しい生活様式」について、懇談会を通じ提案するとともに、定着に向け周知啓発を行う。 ・事業系ごみの搬入規制の実施及び廃棄物の適正排出について、事業者向けごみ分別辞典を活用し説明会を行うなど、事業者へ十分な周知を行い、資源化の推進及びごみ総排出量の一層の削減を目指す。
20-4	地球温暖化対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅用太陽光発電システム等への補助により、108件の太陽光発電システムが設置された。 ・事業の財源である地球温暖化対策実行計画推進基金の残高が減少しており、事業の優先度の検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガスの排出削減のため、太陽光、風力、木質バイオマスなどの再生可能エネルギーの普及促進を図るとともに、市民の省エネ行動の周知啓発などを進める。